

全国

ぜんこく
しぎかいじゅんぽう平成26年
(2014年) 8月25日
毎月3回5の日に発行
(購読料は会費に含む)第1914号
定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03(3262)5234
句報 TEL 03(3262)2309
発行人 原田 正司

http://www.si-gichokai.jp

市議会旬報

第9回全国市議会議長会
研究フォーラムを岡山市で開催

第9回全国市議会議長会研究フォーラムが、8月6日、7日の2日間、岡山県岡山市の「岡山シンフォニーホール」で開催された(2面から3面に関連記事を掲載)。

1日目の開会式では、佐藤祐文・会長(横浜市議会議長)の挨拶に続き、則武宣弘・岡山市議会議長、大森雅夫



挨拶する佐藤会長



挨拶する則武岡山市議長

岡山市長が挨拶した。

その後、基調講演に入り、増田寛也・野村総合研究所顧問・東京大学公共政策大学院客員教授が、「人口減少時代と地方議会のあり方」と題し、講演した。



挨拶する大森岡山市長



開催旗を受け取る佐藤福島市議長

は、「分権改革20年と地方議会のあり方」と題し、牛山久仁彦・明治大学政治経済学部教授がコーディネーターを務め、パネリスト5名とともに議論を深めた。



挨拶する広瀬副会長



蓬町村議会議長(一番左)

災害救助法等を適用

高知県は8月9日、台風11号により、高知市に対し、災害救助法の適用を決定した。

同市に対し、総務省は8月19日、9月定例交付額の3割に当たる21億9800万円の繰上げ交付を決定し、20日に現金交付した。

8月15日からの大雨により、京都府は福知山市に、兵庫県は丹波市に対し、8月17日付けで災害救助法、被災者生活再建支援法の適用を決定した。

8月19日からの大雨により、広島県は広島市に対し、8月20日付けで災害救助法、被災者生活再建支援法の適用を決定した。

次期開催地挨拶では、佐藤一好・福島市議会議長から挨拶があった。次期開催は、来年11月18日、19日を予定している。

2日目の課題討議では、「議会のあり方について」と題し、横道清孝・政策研究大学院大学副学長がコーディネーターを務め、報告者3名と

ともに議論を深めた。

閉会式では、則武議長から、佐藤議長へ開催旗の引き継ぎが行われた。最後に、広瀬和範・副会長(徳島市議会議長)が挨拶し、フォーラムを閉会した。

なお、10月頃、全市に研究フォーラムの会議録を送付する予定。

佐藤会長が
直島町を表敬訪問

佐藤祐文・会長(横浜市議会議長)は8月5日、香川県直島町役場を訪れ、全国町村議会議長会会長の蓬清二・直島町議会議長を表敬訪問した。

当日、佐藤会長は蓬町村議会議長など意見交換したほか、島の飛躍的な発展に貢献している「三菱マテリ

アル(株)直島製錬所」などを視察した。

直島町(香川県香川郡)瀬戸内海上に浮かぶ直島を中心とした27島の島々からなる。人口は3174人(26年4月1日現在)、面積は、14・23平方き、議員定数は10名。町長は濱中満氏。



牛山久仁彦・
明治大学政治経済学部教授



林宜嗣・
関西学院大学経済学部教授



穂坂邦夫・
元志木市長

パネルディスカッション

コーディネーターは牛山久仁彦・明治大学政治経済学部教授。パネリストは林宜嗣・関西学院大学経済学部教授、穂坂邦夫・元志木市長、土山

希美枝・龍谷大学政策学部准教授、城本勝・NHK解説副委員長、則武宣弘・岡山市議会議員。テーマは「分権改革20年と地方議会のあり方」。

はじめに、牛山氏が「分権改革から20年、自治体議会の役割が増大してきた」とし、①自治体議会が直面する課題・展望②議会の役割(その最も重要なもの)③議会は変わるのかの3つの論点を提示。それぞれの論点ごとに各パネリストから意見を聞いて

林宜嗣氏
経費削減型の議会改革が進み、強化が必要な議会の機能が弱体化し、さらなる定数削減や経費削減につながるという「負の連鎖」が懸念される。これを断ち切ることが真の議会改革である。議会の役

【3面へ続く】

②では、若者の働く場や学ぶ場を地域に創り出し、地方中枢拠点都市・定住自立圏構想などにより、暮らしの場を整備する。地域に人口減少を食い止める、いわゆるダム機能を持たせることが必要である。

地域は、住民自治がうまく機能しないと、議会がどう自治力を発揮するか。どういう地域にするかは、選挙で選ばれた議員が、真っ先に、真面目から向き合わなければならない。

いく形式で進められ、最後に会場からの質問を受け、各パネリストが回答し、パネルディスカッションを終えた。

①は、広い意味での少子化対策。結婚・出産・子育てを阻害する、収入の不安定さ・低賃金、晩婚・晩産化傾向などの社会的要因を除去する。希望出生率の実現のための政策が必要である。

最後に、人口減少時代の地方議会のあり方である。若者の希望通りに出産・子育てができるよう、働く場をつくることを最優先とし、圏域全体を見て、集約化し、拠点形成をする。住民への説明などを含め、議会人が一端を担わなければならない。

第9回 全国市議会議長会 研究フォーラム

in 伝説の岡山市



増田寛也・野村総合研究所顧問、
東京大学公共政策大学院客員教授

【基調講演】 人口減少時代と地方議会のあり方(要旨)

自分が座長を務める日本創成会議・人口減少問題検討分科会から、5月に市区町村別の将来人口推計を公表した。

推計では、20〜39歳の女性人口が5割以下に減少する「消滅可能性都市」は、全国の自治体の約半数。うち人口1

万人未満の523市区町村は、さらに消滅可能性が高い。人口減少の要因は①20〜39歳の若年女性の減少②人口の社会移動(東京一極集中)の2点。

悲観論は益がなく、国民が基本認識を共有した上で、適切な対策を打てれば、人口急減は回避できる。

対策は①少子化対策②東京一極集中対策を同時に行わなければならない。

最後に、人口減少時代の地方議会のあり方である。



次期開催地は福島市



挨拶する佐藤議長

福島市出身の作曲家である古関裕而の作曲で、夏の高校野球の大会歌で有名な「栄冠は君に輝く」の曲に乗せて、福島市議会議員が登壇。その最後に佐藤一好・福島市議会

議長が野球のユニフォーム姿で登場し、次期開催地挨拶を述べた。

挨拶では、まず、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災者受け入れについてのお礼を述べた後、福島の高校生の言葉を紹介し、福島を訪れ、福島の実を見てもらいたいとし、福島「悲劇を奇跡」に変える宣言。最後に、次期開催における多数の参加をお願いした。

【2面から続く】

➡ 割は政策形成に尽きる。議会は、変われるというよりは、住民を巻き込む形で、住民とともに変わらざるを得ない。穂坂邦夫氏

議会は存亡の危機、最大の危機に面している。しかし、これからは地域経営の時代であり、いよいよ議会の出番となる。最も大切なことは、ピンチをチャンスに変えられるよう、議会の機能をしっかりと発揮すること。政策提言を超え、政策立案を目指すような政策議会にならねばならぬ

課題討議

コーディネーターは横道清孝・政策研究大学院大学副学長。報告者は、海老原功一・流山市議会議員、川上文浩・可児市議会議員、高橋健二・大津市議会前議長。テーマは「議会のあり方について」。



横道清孝・
政策研究大学院大学副学長



土山希美枝・
龍谷大学政策学部准教授

い。議会は変わろうとしていることは感じるが、まだ変わってはいない。

土山希美枝氏

議会はまとまれば強い。まとまらなければとても弱い。議員の集合としての存在から、議会として意思形成し、それを表出する存在になれる



城本勝・
NHK解説副委員長

かが課題。また、意見集約し、意思形成する過程などを可視化し、議会として「キャリア立ち」をすることが大事。議会は、既に明確に変わっている。今後も求められる役割に変わっていくのが問題である。

城本勝氏

議会の一番の問題は、住民



則武宣弘・
岡山市議会議員

から非常に遠い存在であり、不信任を持たれていること。議会活動などを住民に見せることが必要。議会の役割として最も重要なのは、住民の合意形成を得ること。これには、プロセスを可視化することが必要。変えられるかというより、変わらなければなら

ない。ただし、住民が変わらなければ議会は変わらない。

則武宣弘氏

キーワードは「オール議会力」。議会は、党派を超えて、個人のスタンドプレーを抑えて、全体として一つにまとまって組織として動き、機関として、オール議会力を発揮しなければならない。議会の課題は、問題を提起し、住民の声を聞き、決めていくこと。これからは首長や住民が一体となった「オール地域力」が必要となる。

高橋健二氏

26年2月、議会例規の抜本的改正を行った。会議規則を条例化し、その下に会議規程を位置付けた。また、この規程に、先例や申し合わせ事項を明記し、「議会の見える化」を推進した。

23年6月に、議会の政策立案機能の強化のため、「政策検討会議」を設置。また、大学との連携による政策提案を行っている。主な活動実績は、議員政治倫理条例の制定（23年度）、いじめ防止条例の制定（24年度）、地方議会初となる議会BCP（業務継続計画）の策定（25年度）。

いじめ防止条例については、17回に及ぶ会議を行い、単なる理念条例ではなく、実効性ある条例とした。

はじめに、コーディネーターの横道氏から①議会運営のあり方②政策検討・立案機能の強化③住民との関係構築の3つの論点を提示。次に、報告者が、各々の市議会の取り組みについて報告し、事前に参加者から寄せられた質問及び会場からの質問に回答した後、課題討議を終えた。

報告要旨

海老原功一氏

平成13年7月に設置した「地方分権検討協議会」を議会改革の出発点とし、21年3月に制定した議会基本条例で

改革をさらに加速させた。制定に当たり、特徴的な取り組み



海老原功一・
流山市議会議員



川上文浩・
可児市議会議員

みは、前文から一言一句議員自身が考え▽報告会などで市民意見を積極的に取り入れた▽党派・会派を超えた自由討議を重ねた▽専門的知見を活用した▽ことである。

「議会の見える化」の推進として、21年10月のICTの推進を求める決議以降、22年



高橋健二・
大津市議会前議長

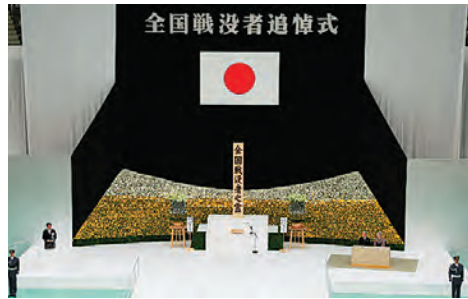
調査するため、市民を対象に議会改革のためのアンケート調査を実施。結果、議会への関心が低いなど厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識。調査結果を盛り込んだ提言を作成した。

新たな取り組みとして、可

終戦から69年

全国戦没者追悼式

本会の佐藤会長も参列し黙とうをささげる



式辞を述べる安倍総理
【出典＝首相官邸ホームページ】



献花をささげる安倍総理
【出典＝首相官邸ホームページ】

天皇陛下おことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。終戦以来既に69年、国民のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き

上げられましたが、苦難に満ちた往時をしのぶとき、感慨は今なお尽きることがありません。ここに歴史を顧み、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願ひ、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に對し、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

全国戦没者追悼式式辞

69回目の終戦記念日を迎えた8月15日、政府主催による全国戦没者追悼式が、東京・日本武道館で実施され、本会の佐藤祐文・会長（横浜市議会議長）が参列した。追悼式では、天皇皇后両陛下

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、戦没者の御遺族、各界代表、多数の御列席を得て、全国戦没者追悼式を、ここに挙行致します。祖国を思い、家族を案じつつ、戦場に倒れられた御霊、戦禍に遭われ、あるいは戦後、遠い異郷に亡くなられた御霊、いまその御前にあつて、御霊安かれと、心より、お祈り申し上げます。戦没者の皆様の、貴い犠牲の上に、いま、私たちが享受する平和と、繁栄があります。そのことを、片時たりとも忘れません。

下のご臨席を仰ぎ、遺族の方々をはじめ、内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、関係団体の代表などが参列。戦没者を追悼し、平和を祈念した。

安倍総理の式辞の後、正午に参列者全員で1分間の黙とうをささげ、天皇陛下がおことばを述べられた。続いて、衆参両院議長、最高裁長官、遺族代表が追悼の辞を述べ、参列者による献花が行われ

いまだ、ふるさとへの帰還を果たされていないご遺骨のことも、決して忘れません。過日、パプアニューギニアにて、ジャングルで命を落とされ、海原に散った12万を超える方々を想ひ、手を合わせてまいりました。いまは、来し方を想ひ、しばし瞑目し、静かに頭を垂れたいと思います。日本の野山を、蝉しぐれが包んでいます。69年前もそうだったでしょう。歲月がいかに流れても、私たちに、変えてはならない道があります。今日は、その、平和への誓いを新たにします。

た。政府は、半旗の掲揚及び黙とうの励行について、地方公共団体等に協力を依頼した。追悼式は、先の大戦の全戦没者に対し、国を挙げて追悼の誠をささげるため、昭和57年4月13日に閣議決定した「『戦没者を追悼し平和を祈念する日』について」に基づき、政府主催で毎年8月15日に日本武道館において実施している。

私たちは、歴史に謙虚に向き合い、その教訓を深く胸に刻みながら、今を生きる世代、そして、明日を生きる世代のために、国の未来を切り拓いてまいります。世界の恒久平和に、能うる限り貢献し、万人が、心豊かに暮らせる世の中の実現に、全力を尽くしてまいります。終わりにいま一度、戦没者の御霊に永久の安らぎと、ご遺族の皆様には、ご多幸を、心よりお祈りし、式辞と致します。

平成26年8月15日
内閣総理大臣・安倍晋三
【出典＝首相官邸ホームページ（表記もこれに従った）】

議会人事

- ▽議長 中島健一(6・9)
- ▽芦屋 渡辺利彦(6・27)
- ▽都留 杉本光男(6・27)
- ▽二本松 中田涼介(7・1)
- ▽尼崎 杉山公克(7・8)
- ▽米子 渡辺穰爾(7・14)
- ▽宮津 松浦登美義(7・18)
- ▽立川 須崎八朗(7・22)
- ▽加古川 相良大悟(7・28)
- ▽大月 小原丈司(7・29)
- ▽副議長 小原丈司(7・29)
- ▽芦屋 いたうまい(6・9)
- ▽塩竈 鎌田礼二(6・25)
- ▽奈良 東久保耕也(6・25)
- ▽富士吉田 羽田幸寿(6・27)
- ▽都留 清水絹代(6・27)
- ▽東広島 赤木達男(6・27)
- ▽二本松 本多勝実(7・1)
- ▽中津 古江信一(7・7)
- ▽尼崎 上村富昭(7・8)
- ▽米子 中田利幸(7・14)
- ▽宮津 嶋田茂雄(7・18)
- ▽立川 伊藤幸秀(7・22)
- ▽加古川 畑広次郎(7・28)
- ▽越前 川崎悟司(7・30)
- ▽事務局長 山田秀男(4・1)
- ▽坂出 山田秀男(4・1)